

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100308
法人名	株式会社 EPO
事業所名	グループホーム えん
所在地	福岡県北九州市門司区田野浦2丁目9-33
自己評価作成日	平成29年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成29年1月18日	評価結果確定日	平成29年3月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①高齢者が住み慣れた地域で暮らせる為の生活の支援を行う。
- ②週1回マルシェを実施し、近所の方の買い物の手助けになるよう支援している。
- ③認知症ケアを行う為の人材育成。
- ④地域の方や小学生と交流行事を行い、地域と連携をとっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目を迎え、毎週行われるマルシェは継続されており、地域の方々が生鮮食品や惣菜、パンなどを購入する場所としても近隣の地域住民にその存在が浸透しつつある。田ノ浦提灯が慰問にて行われたり、高校生のボランティア受け入れ等、地域との交流が増えている。近年の熊本地震の際、地域住民の緊急避難の受け入れを行い宿泊場所を提供・支援する等、地域貢献が行われている。また、管理者は、重度化や終末期に対応できるような人材育成に課題をもち、事業所全体のスキルアップを目指すべく、自らもリーダーシップや職員のストレスケアについて学習する等、前向きに取り組んでいる。今後も地域との連携や利用者への対応について期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア会議を利用し、理念について再確認し介護技術等に関する指導を都度行った。	「介護の仕事に夢とプライドを」という法人理念のもと、運営方針において5つの「えん」である「縁」「円」「援」「園」「宴」を掲げ、職員に周知を図っている。GHとして、利用者との縁を大切に個々の生活歴を重視した個別ケアを目標としている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域行事等には積極的に参加している。 週に1回マルシェを実施し、地域の方々と交流を図っている。	自治会(町内会)に加入しており、回覧板にて行事などの情報交換が行われ、小・中学校の運動会や文化祭などに参加している。地域の清掃活動には職員が参加している。また、週に1回行われるマルシェは地域に認知され、買い物や交流の場となっている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し、認知症について知って頂く機会を設けたり、介護相談に関して常時受け付けている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの日常風景やサービスを報告し、地域の方からの意見を伺ったり、地域行事についての情報を聞いている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能型事業所と合同で開催され、ホーム利用者の家族でもあり、併設事業所を利用する夫の参加もある。会議は併設の地域交流サロン「夢咲村」にて行われ、運営状況の報告などがされている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	6か月に1回開催されるGH連絡会に参加。各事業所の報告や質の向上についての話し合いを行っている。	市町村とは、家族と疎遠な利用者の契約等の対応について相談する等、必要に応じて連携を図っている。GH協議会では、人員不足や運営の工夫等について共有している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修をフロア会議や職員会議にて実施。職員に身体拘束についての周知を図っている。現場では見守り強化、所在確認をこまめに行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームは2階に位置し、両側に各ユニットが併設する設計であるが、玄関以外は施錠はせず、利用者は両ユニットを自由に行き来できる。スピーチロックについても、日ごろのケアの振り返りを行い、優先順位等を検討しながら、拘束・制限しない支援の実践に努めている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について職員会議での研修を行い、職員に虐待についての周知を図っている。また内出血等を発見した場合は原因究明を行い、再発防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議を利用し、権利擁護について学ぶ機会を設けた。	制度の活用についてはパンフレット等準備し、必要に応じて説明できるようにしている。制度については、法人内の居宅介護支援事業所より手続きについて説明があったり、外部研修に参加し、職員会議にて伝達研修される等理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族、ご利用者に十分に説明を行っている。改定があった際は同意書等を作成し、説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、苦情・相談を受け付けている。入り口に意見箱も設置し、入れて頂くようにしている。	家族からの意見は面会時に聞くようにしている。設備・環境面や利用者への対応については、その都度状態を説明しながら、ケアの質の向上に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案はフロア会議等にて聞き、管理者会議等でまとめ、反映できることは実施している。	ホーム職員の会議が1回/月開催され、利用者の対応や行事などについて意見交換が行われている。職員は2ユニット兼務であり、常に事業所全体として利用者の状態把握や運営状況の把握を行っている。また、管理者はリーダーシップやコーチングの研修に参加し、職員の教育や意見反映について、向き合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用時には就業規則についてしっかりと説明を行い、本人の就業に関しての希望に沿える時は、対応を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用に関してはハローワークを通して行っているが、年齢や性別を理由に断ることはない。学校に通いながら資格取得の為の勉強、研修制度も充実している。	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等での排除はしていない。初任者研修の費用負担や外部研修の参加支援等、法人として柔軟に対応している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	現在行っていない為、今後のフロア会議にて行っていく予定。	人権の尊重については、日ごろのケアの場面において常に個別ケアであることを職員に指導する等、取り組んでいる。身体拘束や高齢者虐待防止、認知症ケア等の研修を通じて、人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介助の手順書を作成したり、都度介助方法の指導を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	6か月に1回のGH連絡会に参加している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に情報収集を行い、本人の希望することや趣味等を伺っている。入居時には自宅で使い慣れた家具や道具を持ち込んで頂き、安心して過ごせる環境作りに取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に情報収集を行い、ご家族の希望や相談をしっかりと聞き、サービス提供を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント、カンファレンスの際に利用できるサービス等の説明を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動や趣味活動を行う事で、信頼関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との外出の機会を優先し、面会にもなるべく来て頂くよう声掛けを行っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時は居室にてゆっくりお話しして頂いている。	利用者が大切にしてきた宗教活動(教会に行く・牧師の面会)やなじみの美容院通い等、関係継続のための支援を行っている。また町内の行事に参加すると、昔の知人から声をかけられることもみられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話をしている際は、職員が仲介に別の利用者も一緒に混ざって話が出る様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には面会に行き、状態確認を行っている。また退院時の相談等、ご家族様へのフォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らし方を聞き取り、可能な限り近づけるよう意向の把握に努めている。	計画作成者は、入居前に自宅や病院に訪れ、インタビューにて利用者の身体状況や思い、希望を聞き取るとともにプランの説明を行っている。家族より「生活歴情報シート」記載をしていただき、これまでの暮らしや職業等生活歴を把握している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートに生活歴等を記入し、職員全員が周知できるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを使用し、職員全員が周知できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやフロア会議にて話し合いを行い、意見を反映している。	毎月、担当介護スタッフと連携しながらモニタリングを行っている。また6か月ごとに計画を見直し作成している。	アセスメントから得た情報にもとづいて、具体的に目標を立てサービス内容を検討すると、より個別で根拠ある介護計画につながると考えられます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録を個別に記入している。会議等で意見を出し合い、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に沿えるように職員同士で意見を出し合い、サービスの工夫を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事を把握し、町内会の運動会や文化祭に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回訪問診療を受けている。 主治医とすぐに連絡が取れるように連携を取り、緊急時にはすぐに対応出来る様に支援している。	利用者の希望に応じ、協力医療機関の往診または、入居前のかかりつけ医の継続を支援している。必要に応じ、病院までの送迎や情報提供など支援をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の訪問時に利用者の状態報告等行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、状態報告を受け病院側からも細めに連絡を受けている。退院時に備えての情報交換等も行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に一通りの説明を行い、同意書に署名を頂いている。ターミナルケアに取り組む際には看取りに関する同意書に署名を頂いている。	重度化や終末期については年間計画に沿って研修が行われている。利用者の家族には日ごろから状態やリスクについて説明を行いながら、希望に応じ看取りまで支援できるように努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在は応急手当や初期対応の訓練は行っており、管理者や主治医の指示のもとで対応を行っている。今後、会議等で訓練を取り入れて行く予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や災害についての勉強会を行っている。	併設する小規模多機能型事業所と合同で年2回避難訓練を実施している。夜間想定訓練時は事業所に最も近いスタッフが駆けつける時間を想定し、利用者の誘導までを1~2名で行っている。熊本県の地震の際には地域住民がホームに緊急避難し3泊する等地域貢献も行っている。	避難訓練には地域住民の参加を得る等、今後は地域との連携や役割分担なども期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	動作を行う前に必ず声掛けを行っている。	利用者への言葉使いや声掛けについては、日ごろから注意し、職員同士のマナーについても会議で取り上げる等、重視して取り組んでいる。また、排泄の失敗の際にも利用者が傷つかないように配慮する等対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの仕方を工夫し、開かれた質問を行うようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	物事や何かを行う際にははじめに本人に聞き取りを行ってから取り組むようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時、行事がある際は自身にて服を選んで頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、別のもので提供している。おかずの盛り付け等、一緒に行う事もあり、食器洗いや食器拭きも手伝って頂いている。	食事やおやつは厨房より提供され、事業所にて利用者と共に盛り付け、片付けされている。外食レクなども企画され、バスハイクでは、外でお弁当を食べながら利用者同士の交流も図り、楽しむ工夫がされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回体重測定を行い、これを参考に食事の量を調節したり主治医指示にてその人に合った食事量を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシやスポンジブラシ等での口腔ケアを行っている。必要な方には月2回、訪問歯科の診療を受けて頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認したり、一人ひとりの尿意等のサインを把握し失敗のないようトイレ誘導、パット交換を行っている。紙パンツから布パンツに変更した成功例もある。	個別の排泄チェック表を活用して個々のパターンに応じた声掛けや介助を行い、オムツを減らす取り組みをしている。利用者の状態に応じ二人介助を行い、日中はトイレでの排泄を促すよう努め、自立支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を確認し、排便のペースを把握している。排便困難時は主治医へ相談し、内服等で調整している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿った入浴回数や入浴時間で提供出来る様に配慮している。	入浴は2～3回/週、行われている。シャワーキャリ等福祉用具の活用をしながら安全にも配慮した入浴の提供が行われている。また季節に応じ、ゆず湯やしょうぶ湯など楽しむ工夫がされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は特に決まっておらず、本人の好きな時間に行って頂くようにしている。日中も休んでおられる時は基本的には休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理をしており、服薬時には名前と日付の確認をきちんと行って服薬している。薬の内容等についてはいつでも確認できるように説明書を保管している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動や施設行事への参加を促し、気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日は屋外散歩を行っている。また毎年4月にはバスハイクとしてお弁当を持って遠出を行っている。また、本人の希望する場所へご家族様の了解を得て、外出レクとして外出する機会も設けている。	近隣の公園までの散歩やホーム前の方の庭の花を見に行く等、日常的に外出や外気浴をするようにしている。家族と利用者が定期的に外出する例もあり、その際にはリスクや支援方法など適宜通達している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様本人が管理をするのは難しい。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をかけて頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせた花を飾ったり、壁を飾ったりしている。天気の良い日は窓を開けて外気の空気を感じて頂いている。	建物の2階に位置しており、日当たりのよいリビングには季節の花などが飾られる。管理者は利用者同士の交流が深まるために席替えを行うなど工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の好きな席に座って頂いたり、ソファにてゆっくりと過ごして頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具等をお持ち頂いている。また家族写真を飾ったり思い出の品を持って来て頂き、ゆっくり眺める事ができるよう配置に関しても配慮している。	各居室にて、ベッドやクローゼットが備え付けられ、整理され清潔に保たれている。家族からのお花屋、家族の写真、ぬいぐるみなどなじみの物が飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を確保し、移動の際の邪魔にならないよう環境整備を行っている。必要時には手すりを持って歩行して頂いている。		